

編み込まれた記憶——パプアニューギニアの網袋製作から

新本 万里子しんもと まりこ 広島大学大学院社会科学部科学研究科 研究員



農作業用の網袋をたずさえて、ヤムイモの運搬に向かう女性たち(2009年)

手芸品には、自分の楽しみのためばかりではなく、誰かにあげてくれることを前提に、その人を思いながら製作されるという側面がある。もらった人は作り手を思い出すことになる。パプアニューギニアで製作される網袋には、どのような記憶が編み込まれているのだろうか。

村に住んでいた。でも、高地に帰ってしまった。KKスタイルとかマウンテン・レインボーとかいうデザイン」

パプアニューギニア、東セビック州のマリク町近くのN村で、ある一家の網袋について聞きとりをしているときに、ナムという二十代前半の女性が話してくれた一節である。ナムの住んでいる東セビック州は、地理的にはパプアニューギニア北部に位置する。

友達の出身地である高地とは、パプアニューギニア中央部に位置しており、飛行機か船とバスを乗り継がなければ行くことができない。友達は、父親がマリク町で仕事をしていたため、町から近いN村のゲスト・ハウスに家族と一緒に滞在していたのである。KKスタイルやマウンテン・レインボーは



朝早く、網袋をもって仕事に出かけるナム。この朝ナムが選んだのは姉妹の網袋。姉妹間での貸し借りはめずらしくない(2016年)

ナムの網袋コレクション

「これは高地出身の友達に編んでもらったもの。わたしがアクリル毛糸を買って渡し、彼女が編んでくれた。彼女は以前、N

んでいる。友達の方から「編んであげる」と言われて編んでもらった網袋もある。

網袋を編めない世代

若い世代では、ナムのように網袋の編み方を知らない女性が増えつつある。もともと網袋は、樹皮の内側の繊維を撚って作った糸で編まれていた。しかし、機械で撚りかけられたナイロン製の糸が販売され、農作業用の網袋はその糸で編まれるようになった。また、ナムの網袋のような私物を入れる小型の網袋は、アクリル毛糸で編まれるようになった。さらに、近年では、既製のナイロン製穀物袋が販売され、農作業用の網袋の代用とされるようになった。工業製のバッグを、小型の網袋の代わりに携行する女性も出てきた。網袋を編むことは、女性たちにとって生活を営む上で必須の技術ではなくなったのである。

アクリル毛糸を購入する

網袋を編んでもらうとき、ナムがしたように、アクリル毛糸を買って編み手に渡すということがある。調査を始めたばかりのころ、「姉」とよんでいる女性の網袋をみせてもらっていたときのことだった。「編んであげるよ。何色がいいの？ 毛糸を買っておいで」と姉は言った。わたしは少々面食らった。網袋を編んでほしいと頼んだわけではないから



ナムの網袋コレクション。上段左端の網袋が、高地出身の友達に編んでくれたもの(2016年)

だ。わたしにとって「編んであげる」とは、編む人が自分で毛糸を購入して編み、できあがった網袋をくれることを意味している。なぜわたしが毛糸を買うのか腑に落ちないままマリク町に行き、毛糸を購入し、それを姉に渡した。すると姉は、「来年ここに来るのは何月？ 編んでおいてあげるから」と言った。翌年再訪すると、網袋はできあがっていた。パプアニューギニアの人びとにとって、「編んであげる」といわれて毛糸を購入することは不思議なことではない。ナムの網袋のなかにも、友達の方から「編んであげる」と言われた網袋がある。そのように言われて毛糸を買に行ったことや、ときには友達と一緒に毛糸を探しに行ったことをナムは当然のこととして話す。

編み手との関係の記憶

日本に帰国してからも、姉が編んでくれた網袋をみるたびに、わたしは姉を思い出した。一方、姉もまた網袋を編みながら、毛糸を預けたわたしのことを思い出していたはずである。パプアニューギニアではしばしば、人びとは何かしらのモノをもらうことによって人間関係を構築しようとしているように見える。「編んであげるから毛糸を買っておいで」と言われても、毎回購入するわけにもいかない。恐る恐る断ることもある。しかし、断っても何も起らない。毛糸を買うことによっても始まるであろう関係が、始まらないだけのことである。毛糸をもらった編み手は、それをくれた人を思いながら編んでいく。そして依頼者の手元には、毛糸のお返しであるかのように網袋が返ってくる。アクリル毛糸を購入するという貢献をわたしがし、それに手を加えて網袋にするという貢献を姉がする。姉が編んでくれた網袋には、二人で座って網袋の話をし、わたしが毛糸を買いに行き、姉が編み、そして再会したという記憶が積み重なっている。ナムの網袋の一枚一枚にも、そんな関係の記憶が編み込まれているのだ。パプアニューギニアの網袋には、編み手の記憶ばかりではなく、わたしも一緒にそこにいたという記憶が編み込まれている。

(写真はすべて東セビック州マリク地区N村にて撮影)